

## 「海外のロータリークラブあれこれ」

2700 地区 PDG 廣畑 富雄 (福岡西)

海外のロータリークラブは、日本のクラブとは、随分違うように思います。それを若干書いてみます。皆様のご参考になれば幸いです。

- 1 年会費の問題： 日本の年会費と、基本的に違うのは、食事の費用です。日本の年会費には、食事代が入っている。海外（私が知っているのは、ほとんど米国）では、食事代はその都度払います。それから、事務員がいないクラブが多い。幹事が事務員の代わりをする。それで年会費が、500 ドルとか、非常に安くなります。
- 2 事務員に関する一つの例をあげると、前事務総長のフタさんは、ハワイ出身で、たしか Honolulu-East RC、ホノルル東RC が、ホームクラブだったように思います。随分前に（30 年前？）、このクラブを訪ねると、幹事が、会員のバッジをつめた、横長の細いブリーフケースを持参、それから会員の方が、バッジを取出し、胸につけていました。幹事さんは、結構大変だな、という記憶があります。
- 3 また事務員で思い出すのは、オーストリアのウィーンの、オペラ座のそばのクラブです。かなりの人数のクラブで、夜の例会です。ドイツ語で、しきりに話し合いをしている。何だろうと横の英語を話す人に聞くと、「今は事務員がいないが、雇うべきかどうか、話し合っている」、とのことでした。
- 4 ついでに週報の事を書くと、日本のクラブでは、ほとんど週報があるが、週報がないクラブも、結構あります。むしろ、週報のあるクラブの方が、少ないでしょう。
- 5 北米以外で、最初に出来たのは、ロンドンRCです。訪ねてみると、会員数が半分になった、とのこと。会長さんの話では、今のロータリーは忙しくなり、若い人が入ってこれない、そのためではないか、という説明でした。どんな組織でも、簡素化をはかる、それが大事な事でしょう。
- 6 これは最初に書くべきでしたが、どこのクラブでも、来訪者を快く迎えてくれ、歓迎してくれる、これはロータリーの有難い伝統です。最初から友人として迎えてくれる。初めからニックネームで呼ぶ、そういうクラブもあります。私なら、トムでしょうか。
- 7 一番ショックを受けたのは、ボストンRCです。世界で 7 番目に出来た名門クラブで、かつては、会員が 400-500 人いた。それが私が久しぶりに訪ねたときには（2007 年）、40-50 人に激減し、訪ねた日の、例会出席の会員は、13 人のみでした。会員増強、というレベルの話ではなく、基本的に考

えるべきでは、と感じた次第です。

- 8 一番楽しかったのは、「ポールハリス記念RC」です。和気あいあいとしている。ご夫人方が食事を作り（当時このクラブに女性会員はいない）、楽しい食事を共にする。ボストンから北北西にドライブして、4-5時間のところ、ウォリングフォードという町にあります。ポールハリスは自叙伝（**My Road to Rotary**, 私のロータリーへの道）で、ロータリー運動は、いわば谷間にある彼の故郷、ウォリングフォードでの生活から生まれた、と言っています。厚い友情、宗教的、政治的な寛容さ、などから生まれた、と述べています。考えさせられる記述であり、コンセプトです。

以上拙文を記しましたが、もし皆様の、ご参考になれば幸いです。

2013.12.17